

事業報告

令和4年度 企業・高校等を活用したチャレンジ教室開発事業
「県によるプログラム提示①」

日時：令和4年6月26日（日）

会場：大分県立図書館 参加者：市町村社会教育関係者20名（7市）、小学生44名

<研修趣旨>

「おおいたを知る・おおいたを学ぶ・おおいたを体験する」ことのできる小学生向けの各種体験プログラムを多様な経験をもつ外部団体と連携して開発・実施し、併せて市町村へのプログラムの紹介・普及を図る。

<研修内容>

【第1部】▼「夢をひろげよう、おおいたの科学技術！ 科学技術体験」

プログラム見学

協力団体：

ドローン操作体験（おおいた建設人材共育ネットワーク【BUILD OITA】）

半導体技術体験（株式会社ジャパンセミコンダクター大分事業所）

化学反応体験（昭和電工株式会社大分コンビナート）

今回のプログラムは、科学の理論や現象そのものに特化せず、各企業・団体が、科学技術がどのように活用され世の中の役に立っているか、また、どのような企業活動を行っているか等について、体験活動と説明を効率よく指導していただいた。アンケートからは、参加した小学生の多くが、元々抱いていた興味・関心に加え、新たな気づきや学びを得る機会となったようである。各企業・団体が、小学生を意識して準備し、分かりやすい説明や進行により、小学生の理解度・満足度が高かった。保護者にとっても、学校とは違う場所で、有用な科学技術について企業の方々から丁寧に分かりやすく指導していただいたと好評価であった。



【主催者あいさつ】
大分県立図書館 館長 宮迫 敏郎



【第1部】
ドローン操作体験：おおいた建設人材
共育ネットワーク【BUILD OITA】



【第1部】
半導体技術体験：株式会社ジャパンセミコン
ダクター大分事業所



【第1部】
化学反応体験：昭和電工株式会社大分コンビ
ナート

【第2部】 ▼協力団体との協議・意見交換

協力団体の代表から今回実施したプログラム及びその他実施可能なプログラムについて説明していただいた。その後質疑・意見交換を行った。

プログラムの内容や進め方の工夫等について、参加者の理解が深まった。体験活動の際の子どもたちの表情からも、市町村からの出席者にとっても魅力ある体験プログラムと感じており、第2部終了後に、名刺交換も行われた。



【第2部】
協力団体との協議



【第2部】
協力団体との協議

＜参加者感想＞

- 子どもたちが目を輝かせて実験に取り組む姿はとてもよいですね。市町村でもできないか考えたいです。
- 県内の企業のことも知ることができて、プラス体験をすることで子どもたちの興味をさらに引き出すことができているなと感じた。
- 高校生が先生になるのも、小学生にも高校生にも双方にためになることで、とても良いと思います。
- 「実験」「体験」「考える時間」が組み込まれ、また、どのように生活と密接な関係であるのかの説明がなされ、子どもたちが飽きることなく取り組んでいる様子がうかがえました。